

15:1 これらの出来事の後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨んだ。「アブラムよ、恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたへの報いは非常に大きい。」

15:2 アブラムは言った。「【神】、主よ、あなたは私に何を下さるのですか。私は子が今まで死のうとしています。私の家の相続人は、ダマスコのエリエゼルなのでしょうか。」

15:3 さらに、アブラムは言った。「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらなかつたので、私の家のしもべが私の跡取りになるでしょう。」

15:4 すると見よ、【主】のことばが彼に臨んだ。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれてくる者が、あなたの跡を継がなければならない。」
15:5 そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。

「あなたの子孫は、このようになる。」

15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

15:7 主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した【主】である。」

15:8 ア布拉ムは言った。「【神】、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」

15:9 すると主は彼に言われた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三

歳の雄羊と、山鳩と、鳩のひなを持って来なさい。」

15:10 彼はそれらすべてを持って来て、真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。ただし、鳥は切り裂かなかつた。

15:11 猛禽がそれらの死体の上に降りて来た。アブラムはそれらを追い払った。

「これらの出来事の後」とあるように、神は信仰者の従いや成長に合わせて御声をくださり、また計画を教えてくださいます。また「恐れるな」というように、安心と希望がともなっています。

しかし、アブラムに子どもがいないということは、その約束も成り立たず、彼にはそれが一番の心配でした。主は天の星を見上げさせてビジョンを示しました。そこでアブラハムは、心配な現実や常識的な見通しではなく、主ご自身を信じたのです。私たちも「主を」信じる必要があります。それも、自分に都合の良いことをしてくださる主ではなく、最善なご計画を成し遂げてくださる、全能の主権者であられる「主」です。

「どのようにして」ということばは、マリアが天使に聞いたことばを思い起こさせます。疑っているのではなく、より深い理解と強い確信を得たいということでしょう。（アブラムも後に確信が揺らいでしまうこともあったのですから。）私たちも謙遜になって、より強い信仰のために主のみわざと答えを求めて良いのです。

それに対して神様は、現実的な証拠を示すよりも、ご自身の熱心を表されました。すなわち、当時行われていた契約の方法に倣って、「破った場合は動物のように死である」「このように命をかける」と、その誠実を表したのです。

確かに新約の光から見るなら、アブラハムの信仰の子孫が与えられるためには、命が犠牲にされました。すなわち十字架のイエス様、神ご自身の犠牲です。主のご計画に進むために、私たちはあ

まりにも見える確証を要求しすぎかもしれません。主の十字架の犠牲と誠実さ、その熱心を思い、主を信頼すべきです。

また「追い払った」とあるように、主の約束はよく注意を払い、（サタンによって）取り去られないようにする必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

